

「ペトロのメシア告白」

2023年05月10日

イエスが独りで祈っておられたとき、弟子たちが御もとに集まって来た。そこでイエスは、「群衆は、私のことを何者だと言っているか」とお尋ねになった。弟子たちは答えた。「洗礼者ヨハネだと言う人、エリヤだと言う人、ほかに、昔の預言者の一人が生き返ったという人もいます。」イエスは言われた。「それでは、あなたがたは私を何者だと言うのか。」ペトロが答えた。「神のメシアです。」（ルカ9：18～20）

主イエスは重要なことをなす時、祈られた。時が来たことを知り、祈っておられると、弟子たちが御もとに集まって来た。そこで主イエスは、「群衆は、私のことを何者だと言っているか」とお尋ねになった。弟子たちは、「洗礼者ヨハネだと言う人、エリヤだと言う人、ほかに、昔の預言者の一人が生き返ったという人もいます」と答えた。洗礼者ヨハネは真っ直ぐな信仰を貫いた人として、民衆から信望を集めていた。エリヤは預言者の中の預言者と言われていた。預言者は、ユダヤ人にとって敬意を払う人であった。弟子たちは、主イエスは最高の尊敬を込めて高く評されていますと答えた。これは、民衆からの評判である。ファリサイ派の人々やヘロデ党の人々からは、体制に反逆する者として、命を狙われていた。弟子たちの返答を聞いて、主イエスは、「それでは、あなたがたは私を何者だと言うのか」と問われた。人の評判ではなく、あなたがた自身は私を何者と見ているのかと、実存的な返答を求めた。すると、例によってペトロが真っ先に「神のメシアです」と答えた。メシアは「油が注がれた者」という意味で、王が即位する時、油が注がれた。イスラエルは、ダビデ・ソロモン王朝は独立国家として繁栄したが、その他の時代は、殆んど大国に支配されて、国家の形を失うような弱小国であった。だから、メシアはイスラエルを政治的に解放する「王」として待望された。後に、理想的な王をメシアと呼び、更に、神が全き救いをもたらす「救い主」を指すようになった。聖書が告げるメシア像は、神との関りにおいて多様に描かれている。メシアはギリシア語で「キリスト」と言う。

紀元前7世紀、（南）ユダは、大国バビロニアに圧迫され、滅亡に向かっていった時代、民の心と生活は荒廃し切った。エレミヤは、人間の律法を守ることのできない罪に絶望したどん底から、神が、律法を人の胸に授け、心の中に書き記し、人は皆神を知る者となる「新しい契約」が立てられる日が来ると預言した（エレミヤ31章）。即ち、神が一方的に人間の罪過を赦すメシアが到来すると預言し、その日を待ち望むようにと希望を語った。

紀元前6世紀、バビロン捕囚から帰還した第二イザヤは、イザヤ書53章で「主の僕の歌」を歌っている。主が遣わした醜い僕は侮辱、軽蔑され、傷を負い、命を絶たれた。しかし、彼の受けた苦難と死によって、人々の病を癒やし、罪を担い、義なる者として神に執り成した。この主の僕は歴史的人物と見られるが、第二イザヤは、苦難と死を負うことによって、罪の赦しを与えるメシア像を信仰的に描き出している。

ペトロの「神のメシアです」という返答は、復活後のキリスト告白を投影しているが、「メシア告白」を契機に、主イエスは苦難を受け、死に向かわれる。主イエスが現わしたメシアは政治的解放者ではなく、エレミヤの「新しい契約」、第二イザヤの「苦難を負う主の僕」に繋がるメシア像を追う歩みへと向かって行く。そのメシアの姿は誰も理解できなかったが、教会は聖霊において、主イエスが負った十字架の死に赦しの福音を見出していった。「キリスト告白」が教会の寄って立つ信仰である